

2026年5月27日

報道関係各位

CDP2025「サプライヤーエンゲージメント評価」にて 最高評価を獲得

～2年連続で「サプライヤーエンゲージメント・リーダー」に選定～

株式会社ツムラ（本社：東京港区、代表取締役社長 CEO：加藤照和、以下当社）は、環境情報開示における国際的な非営利団体である CDP が実施する「サプライヤーエンゲージメント評価」で、最高ランクとなる「サプライヤーエンゲージメント・リーダー」に選定されたことをお知らせします。2024年度に引き続き、2年連続での最高評価となりました。



■「サプライヤーエンゲージメント評価」について

CDPが実施しているサプライヤーエンゲージメント評価は、企業が気候変動課題に対してサプライヤーと効果的に協働しているかを評価するものです。

このたびの選定は、「ツムラ生薬 GACP^{*1}」に基づくサプライヤーとの連携体制や、TNFD/TCFDの統合的な開示体制等が評価されたと捉えています。なお、当社グループは CDP2025 の「気候変動」「水セキュリティ」においても最高評価となる「A」評価を2年連続で獲得しています（水セキュリティ単体では3年連続で獲得）。

自然と健康を科学する

お問い合わせ先

株式会社ツムラ コーポレート・コミュニケーション部 広報課 担当：林、吉崎

〒107-8521 東京都港区赤坂 2-17-11 TEL.03-6361-7100 shuzai@mail.tsumura.co.jp

※1 ツムラ生薬 GACP : GACP は、Good Agricultural and Collection Practice の略で、WHO などが制定した薬用植物の優良農業規範であり、栽培から出荷まで詳細に規定されています。当社では、こちらを基に「ツムラ生薬 GACP」として日本漢方生薬製剤協会（以下、日漢協）が取りまとめた日漢協版 GACP や中国の規範を参考にし、独自に定めています。

■当社のサステナビリティに関する取り組みについて

当社グループでは、第 2 期中期経営計画期間（2025～2027 年度）と連動して、「サステナビリティ・ターゲット 2027」を策定しています。サステナビリティ区分として「カーボンニュートラルの実現」「ネイチャーポジティブの実現」「ツムラサーキュラーエコノミーの構築」「地域・社会リレーション構築」の 4 つの観点からサステナビリティ活動を捉え、その活動全体において、ガバナンス・評価を向上させることを戦略とし、GHG 排出量の削減、プラスチック包装の新素材化・生薬残渣利活用の検討、野生生薬の栽培化、生薬産地での自然保護や教育活動等、各種取り組みを推進しています。

（当社のサステナビリティ活動について：<https://www.tsumura.co.jp/sustainability/>）



■CDP について

CDP は、世界で唯一の独立した環境情報開示システムを運営する非営利団体で、多くの企業や金融機関、自治体が、環境への影響を管理するために CDP のシステムを活用しています。2025 年には、運用資産総額 127 兆米ドルにのぼる 640 の機関投資家が CDP を通じた情報開示を企業に求めました。2025 年には、世界の時価総額の半分以上を占める 22,100 社以上の企業が、CDP を通じてデータを提供しました。（CDP について：<https://www.cdp.net/ja>）

漢方薬の製造・販売を行う当社グループの事業は、自然の恵みである生薬の栽培から始まる「漢方バリューチェーン」によって構成されており、自然環境と深い関わりがあります。今後も「自然と生きる力を、未来へ。」というサステナビリティビジョンのもと、漢方バリューチェーンを通じて持続可能な人間・社会・地球環境を実現するとともに、人々の健康と医療に貢献し続けられるよう、気候変動対策、水資源保護をはじめとするさまざまな取り組みを進めていきます。

以上